

全国の範となる 「農業先進県」をめざして

■知事と農協青壮年部との座談会から

協青壮年部と細川知事との座談会が催され、熊本県農業の将来について活発な意見が交わされました。

熊本には、イ草やスイカをはじめとして、数多くの日本一の農産物があります。文字どおりの農業県ではありますが、今、地域農業を取り巻く環境は、様々な問題を抱えています。

そんな中で、実際に日々農業に取り組んでおられる農



効果があらわれ始めた 県産品PR活動

山本委員長 県下の青壮年部の代表が、知事とお話ができ

るということで、みんな大変期待してまいりました。



委員長・八代地区
山本 幸廣さん

細川知事 色々な地域で農業を営んでおられる方々に直接お会いし、生の声をお聞きしたいと思



日本一づくりによる 地域の活性化を

山本 現在すすめられている日本一づくり運動などでも、地域の活性化が図られているようですね。私のところの八代でも、イ草は日本一の生産量を誇っています。ただ、品質的には負けないのですが、それを加工した花ゴザなど福岡に後れをとっているようです。単に、畳を多くつくれば良いというのじゃなくて、それをどのように加工していくかというのが大切なんじゃないですか。



細川 護熙県知事

知事 イ草といえば「たたみ」。確かにそうですが、現代人の生活様式を考えた場合、「たたみ」以外のものは加工できないかという発想が大切なのではないでしょうか。

デパートで、箱畳というオリジナルな商品を展示した時のことなのですが、この箱畳というのは、畳付の箱で、壁際にくっつけば椅子になりますし、三つセットにするとベッドに、四つにすれば炬燵として利用

山本 昨年は、県産品のPRを積極的に行っていただき、みんなヤル気が出てきたようです。

中村委員 特に、「肥後ビーフ」など成功した例といえるのでは……。

知事 昨年は、東京などの大消費地を中心に肥後ビーフのブランド確立と販路拡大を狙って肥後ビーフフェアを行ったんですが、「肥後ビーフ」の名もだいぶ定着したようですね。その後、東京市場ではこれまでは考えられないような高値で取引されるなどの効果も出てまいり、とにかく日本橋・銀座のレストランのメニューの中にも「肥後ビーフ」と載るようになりました。

今はPRの時代といわれています。



菊池地区
中村 幸弘さん

蓮池委員 地域づくりは人づくり。まず農業を継いでいく若い人が、一か所に集まって集中して研究したり、指導を受けたりできるような所があればと思うのですが……。



天草地区
蓮池 肇一さん



飽託地区
中西 修一さん

山口副委員長 他県でやったことをもまねし追い越そうとしても、なかなか大変なことです。熊本としては、何か違ったことを考え、日本一づくりに努力していかなければなら

知識集約型産業である農業に 多くの後継者を

中崎委員 最近、農協離れの話をよく聞くのですが、農業高校などで、

技術だけでなく、協同組合のあり方などについても教育する必要があるんじゃないですか。

田中委員 私の娘が通っている農業高校では、八十人のうち二人しか農業をやらないという事なんです。

知事 確かに県内の農業高校の卒業生の就農率が低くなっていると聞いています。